

月刊 SMCNEWS 2026. 1 月

Support Management Consultants

SMC代表の

よもやま話

初詣!

一般社団法人SMCホールディングス:代表理事
SMC税理士法人:代表社員

西川 正起



年が明けて早一か月。年々スピード感を感じます。新年は、必ず初詣にお参りします。SMCは特に会社全体で初詣をすることはありませんが、お客様の中には社員一同参拝される方々もいらっしゃいます。**会計処理の寄付や雑費を見るたびに特色が見えて趣があります。**

私は名古屋に自宅があるため、名古屋の熱田神宮に参拝し、会社用と自宅用にお札を授かります(買うではないですよ笑)。**熱田神宮の御礼、初えびすの熊手、あきないえびすの御札をそれぞれ授かります。**初えびすは1月5日の午前0時に登場する熊手で最上の5万

円の熊手は直ぐに完売してしまいます。あきないえびすは2枚の紙に恵比寿様と大黒様が書かれています(若干怖いので会社では袋に入れたままです)。

参拝では、新年の特別参拝をなんと1,000円ですることができます。神職の御案内により、御垣内に入ることができ、近くで参拝が可能です。**やはり神様も忙しいので、近くであることは大事だと思います。**

お賽銭も大事です。調べると所得に応じたお賽銭が心に響くと記載されてる書籍もあり、小銭ではないお賽銭で参拝しました。最近は両替手数料も高いですからね。心新たに残り11か月頑張ります。

若手税理士の税金教室



税制改正大綱と少額減価償却資産の見直しについて

著者

SMC税理士法人:代表社員
多治見事務所:代表
長縄 龍哉

令和7年度税制改正に向けた税制改正大綱が、例年どおり12月に公表されました。今回の大綱では、**物価上昇や中小企業の経営環境を踏まえた実務的な見直し**がいくつか盛り込まれています。主なポイントは次のとおりです。

税制改正大綱の主なポイント

- ・年収の壁の引き上げ
- ・賃上げ促進税制の拡充
- ・暗号資産の分離課税化
- ・NISAの0歳から対応

要注意! ▶ 少額減価償却資産の見直し

即時での費用処理の上限引き上げの可能性
30万円未満→40万円未満へ

などなど目玉の改正案はいくつかあります。

その中でも、中小企業の経営者、経理担当者に特に影響が大きいのが「少額減価償却資産」の見直しです。**これまで取得価額30万円未満とされていた即時での費用処理の上限が、40万円未満へ引き上げられる可能性**があります。

背景には、近年の物価上昇により、パソコンや業務用機器、設備備品などが30万円を超えるケースが増えている実情があります。そういった背景から今回の改正案が出ました。

上限が40万円になることで、これまで資産計上が必要だった設備も経費処理しやすくなり、投資判断の幅が広がります。事務負担の軽減やキャッシュフロー改善にもつながる点は大きなメリットです。

正式な法改正は今後の国会審議を経て決定されますが、早ければ令和7年4月以降取得分からの適用できるかもしれません。**設備投資を検討中の企業は、今後の動向を注視**しておくことよいでしょう。

中小企業の

利益とお金に

まつわる



銀行担当者がファンになる！ 「借入が必要ない時」の銀行訪問

著者

株式会社SMC総研
代表取締役
小川 弘郎



「資金繰りが厳しくなってきた。銀行に頼んで融資してもらおう」もしこのタイミングでしか銀行と接点を持っていないとしたら、それは非常に危険な、あるいは勿体ないことかもしれません。多くの経営者は、融資の申し込みという銀行への「お願い」をするときだけ、銀行を訪問しがちです。しかし、銀行員の立場になってみてください。

半年も1年も音沙汰がなかった企業から、突然「今月の資金が足りないから貸してくれ」と言われる。これほど怖いものはありません。

「我々が知らない間に業績が急降下したのでは？」「何か隠しているのではないかと、警戒レベルが一気に上がってしまい、審査のハードルも高くなります。

銀行担当者を御社の「ファン」にし、いざという時に頼れる味方にする秘訣。それは「お金を借りる必要がない時」こそ、定期的に銀行を訪問すること、です。

具体的には、毎月の試算表(月次決算書)が完成したら、用事がなくても銀行へ足を運びます。

お金が足りない…
今月貸してください

急に業績が悪化した？
何か隠している？

審査が厳しくなる
時間が掛かる

今月は計画通りです
経費が増えた理由はこれです

会社の状況が常に把握出来る
誠実で信頼できる

いざという時に
融資がスムーズ

「今月は計画通り利益が出ている」「少し経費がかさんだが、こういう理由がある」といった現状を説明するだけで十分です。これを繰り返すことで、銀行側には御社の最新の経営情報と、情報を隠さない社長の誠実な姿勢がインプットされ、御社への信頼度が上がります。

銀行は「内容がよく分からない会社」への融資を躊躇しますが、「常に状況を把握できている会社」にはどうにか支援できないかと考えます。平時に積み上げた信頼関係(情報の開示)こそが、将来の投資や、万が一のピンチの時に、融資をスムーズに通すための最強の担保となるのです。

企業側 社労士による

人事戦略講座

2026年度労務の改正予定… その内容と経営リスク回避策は？

著者

社会保険労務士法人 絆:代表
山口 剛志



2026年度、中小企業の経営を大きく左右する「労務の三壁」が立ちます。

「知らなかった」では済まされない、法的義務と社会的責任への備えを万全にしましょう！

これらの改正は、従来の「現場の頑張り」だけでは乗り越えられません。

社員が働きやすい環境を整え、持続可能な組織を作るお手伝いを致します。

労務の三壁

1

障害者雇用率の
「2.7%」への引き上げ(7月)

法定雇用率がさらに上昇し、対象企業の範囲も「従業員37.5人以上」へと拡大されます。採用競争が激化する中、単なる「人数の確保」ではなく、自社の業務をいかに切り出し、戦力化するかという経営判断が求められます。

2

カスタマーハラスメント
対策の義務化

顧客からの過度な要求や暴言から従業員を守る対策が、いよいよ義務化されます。対策を怠り、従業員がメンタル不調に陥れば、安全配慮義務違反として損害賠償を問われるリスクも。組織としての「拒絶のルール」作りや対応マニュアルの作成・教育が急務です。

3

勤務間インターバルの
義務化(導入検討加速)

終業から翌日の始業まで一定の休息時間を設ける「勤務間インターバル」。これまでの努力義務から義務化への議論が加速しています。これは単なる勤怠管理ではなく、既存のシフトや収益構造そのものの見直しを迫るものです。

気になる



相続トピックス



著者

SMC税理士法人:代表社員
中津川事務所:代表
岡本 英樹

相続・事業承継は「税金」よりも「段取り」が重要

相続や事業承継の現場で多く見られるのは、税金よりも準備不足・段取り不足が原因で問題が起きているケースです。

ー 現状チェックから始めてみましょうー

チェックが**3つ以上当てはまる場合、具体的に考え始める時期に入っている**サインです。

この段階で整理を始めておくことで、**選択肢を確保できる、家族**

や社員への説明がしやすくなる、結果的に税務上のリスクも抑えられるといったメリットがあります。

相続・事業承継は、「問題が起きてから」では対応できることが限られてしまいます。

何も決まっていない今こそ、実は一番ご相談いただきたいタイミングです。

【相続に関するチェック】

- ☐ 自分の財産の全体像を家族が把握していない
- ☐ 不動産(自宅・貸家・土地)があり分け方を決めていない
- ☐ 預金や証券が複数の金融機関に分散している
- ☐ 「財産は少ないから大丈夫」と思っている
- ☐ 遺言書を作っていない、または何年も見直していない
- ☐ 相続について家族と話し合ったことがない

【事業承継に関するチェック】

- ☐ 後継者が決まっていない
- ☐ 会社の株式をどのように引き継ぐか決めていない
- ☐ 会社の借入に個人保証が残っている
- ☐ 自分に万一のことがあった場合の意思決定ルールが不明確
- ☐ 事業承継税制について、よく分からない
- ☐ 後継者や家族に、承継の時期や方針を十分に伝えていない

マーケティング思考の筋トレ



生成AIだけでは足りない？ 成果を出すクリエイティブ制作術とは

著者

株式会社SMCマーケティング
代表取締役
吉本 昌史

画像・テキスト・動画までAIで生成できる時代となり、生成AIはマーケティング分野で急速に普及しています。

しかし一方で、

「AIで作ったクリエイティブがチープに見える」

「そのまま使うとブランドに合わない」

といった課題に直面している方も多いのではないのでしょうか。

結論として、生成AIはあくまで“道具”であり、成果を出すには人の判断・感性・意図が欠かせません。

成果につながるクリエイティブ制作には、AIだけに任せない設計が重要です。

生成AIの登場によって、「人の仕事が奪われるのでは？」という声もありますが、実際には「判断・設計・共感」といった人にしかできない役割の重要性が高まっています。

AIが得意なところは任せて、人はより**価値の高い判断や編集、設計に集中することが、これからのクリエイティブ制作の主流**となるでしょう。

生成AIを活用したクリエイティブ制作やマーケティングに興味をお持ちの方は、SMCマーケティングにご相談ください。

皆さまが抱える課題やお悩みを私たちと一緒に解決していきましょう！

AI活用の5つの具体的なステップ

設計

人が「意図」と「条件」を明確にする

生成

AIに素材を作らせる

選別

人が「使える案」と「使えない案」を見極める

編集

人が仕上げる

検証

AI活用と非AI活用の違いを検証する